



# 見つけよう! 自分にもできる平和活動

あなたはどんな事に興味がありますか？  
身近なことから、平和を考えることはできます。  
自分にあった活動を探してみましょう。

スポーツをしたり  
応援したり  
するのが好き



絵を描いたり  
芸術にふれたり  
するのが好き



おしゃべりしたり  
人と交流したり  
するのが好き



学んだり  
調べたり  
するのが好き



## 1 スポーツができる平和を考える



### V・ファーレン長崎を スタジアムで応援

スタジアムに設置されたボードに平和の  
メッセージを書き込んだり、平和の思い  
が込められたユニフォームを着た選手  
たちを応援したりします。

## 2 祈りが詰まった創作アート



### 長崎平和アートプロジェクト〈ナヘア〉

原爆が投下された8月に開催される、アートで平和を発信するプロジェクト。芸術家  
などが作った平和の作品を見たり、ワークショップに参加したりできます。

## 3 平和を身近に感じる活動に参加



### 青少年 ピースボランティア

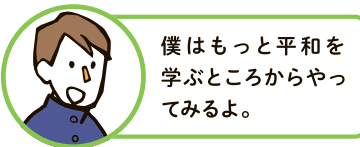
小・中学生などに被爆遺構を案内したり、  
平和祈念式典でのボランティア活動をし  
たりして、平和の大切さを発信します。  
※15～30歳が対象

## 4 平和の大切さを学ぶ



### 原爆資料館・ 被爆遺構めぐり

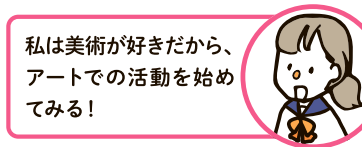
平和案内人から原爆資料館や追悼平  
和祈念館、平和公園などを案内をし  
てもらい、被爆の実相を学びます。



僕はもっと平和を  
学ぶところからやっ  
てみるよ。



今度、家族みんなで  
スタジアムに行って  
みようかな。



私は美術が好きだから、  
アートでの活動を始め  
てみる!



そうそう、みんな  
その調子じゃ!

## interview!

長崎市には、被爆体験を次世代につなぐ人(語り部)と受け継ぐ人(家族・交流証言者)がいます。  
今回は、語り部の丸田さんと交流証言者の坂本さんにインタビューしました。

### 直接、平和の大切さを伝えたい



丸田 和男さん  
長崎平和推進協会の写真資料調査部会や  
継承部会の「語り部」として活躍中。

私は13歳の時に爆心地から約1.3キロの銭座町で  
被爆しました。背中に重傷を負い、母を亡くし、家・財産  
を失って、瓊浦中学校の同級生300人中114人を亡く  
しました。平成10年の66歳の時に「語り部」活動を始  
めてから、20年余りが経ち、被爆者が少なくなる中で、  
原爆を含む戦争の認識が薄れてきているように思いま  
す。歴史の大きな教訓として戦争や原爆を伝えなけれ  
ばなりません。早く若い人に伝えなければという切迫感  
みたいなものがあります。今が直接伝えることができる  
最後の時期になっています。きっかけは、写真、音楽、  
映画、アニメなど何でもいいんです。若い世代が関心  
を持って平和活動の仲間を増やしていくことが大切  
です。

### しっかりと被爆の実相を受け止めたい

もともと平和活動に興味があったので、大学生に  
なって青少年ピースボランティアに参加しました。み  
んなで活動することの楽しさもあったんですが、「一  
人でもできることを!」と思って家族・交流証言者に  
応募し、丸田さんの被爆体験を継承させていただくこ  
とになりました。私たちは被爆者のかたから直接お話を  
聞ける最後の世代。今、頑張らないと次の世代へ繋  
がりません。私は被爆2世でも3世でもないで、丸  
田さんの体験を受け継いでいけるのかなという気持ち  
もあります。大きな責任も感じています。紙芝居な  
どを含めて、得意な朗読やこれまでの平和活動の経  
験を生かして伝えていきたいと思っています。



坂本 薫さん  
将来の夢は教師かアナウンサーになり長崎  
で平和を伝えていくこと。

こうやって、被爆者の思いは次の世代  
へ受け継がれていくんだね。



# “受け継ぐ” “伝える” “創る”

## 平和の大切さを伝え続けるまちへ

# 長崎のまち進化中!!



2020年に被爆75周年を迎える被爆地・長崎は、これまでの平和活動を大切にしながら、さらに  
進化しています。  
まちの進化を紹介する企画の第3弾は、次の時代へつなぐ平和の取り組みをお知らせします。

## 考えながら学ぶ ~新しい平和教育のカたち~

あなたは子どものころ、被爆地・長崎でどのような平和教育を受けましたか?被爆者のかたから話を聞いたり、当時の  
写真を見たりして、被爆の実相を“知る”“感じる”ことで理解を深めてきましたよね。しかし、今まで私たちに伝えてくれ  
た被爆者がいなくなったときに、どのようにして平和の大切さを伝えていけばいいのでしょうか。長崎市では、これまで  
の平和教育に加えて、子どもたちが自ら“考える”“伝える”ための対話を通じた取り組みを始めています。

### check! 対話しながら体験を聞く

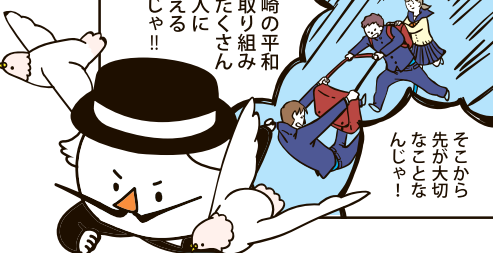
今の生活からは想像が難しい、戦時中の暮らし。対話型の被爆体験講話では、被爆者の話を直接聞きながら、生徒た  
ちが気になった疑問や素朴な質問を投げかけ、被爆の実相を心に刻みます。



生徒たちは聞くだけ  
じゃなくて質問もし  
ているんだね。

自分が疑問に思っ  
たことだから心の中  
にも残るんだ。

質問したいことって  
たくさんあるよね。



### check! 友だちと対話して平和の考えを深める

「もし戦争の時代に自分がいたら…」そんな架空の状況に自分を置いて、平和のことを考える授業では、みんなと活発  
に意見を交わしながら、思いを伝えたり、考えを聞いたりしています。



## 自分自身の平和への考えを持つ

家族のことを一番に考え  
るべきか、世界中の人の  
平和を考えるべきか…

戦争が長引いて、大  
切な人や住んでいる  
まちがなくなってほ  
しくない…

なんとかして戦争を  
終わらせる方法はな  
いのかな…

平和を実現するた  
めには何かを、自分  
から考えたり、行動  
したりすることが大  
切なんじゃ。

## 見つけなおす



いろんな考えがあるんだ。  
もっとたくさんの人と対話  
して深く考えたいな。



どうしてそう思っ  
たんだろ?

## 自分の考えを発表する 友達の考えを聞く



僕は少し違った考え方  
だ。こういう考え方もあ  
るんだ。

## 疑問に思っ たことを質問する 話し合う

